

3:1 こういうわけで、あなたがた異邦人のために、私パウロはキリスト・イエスの囚人となっています。

3:2 あなたがたのために私に与えられた神の恵みの務めについては、あなたがたはすでに聞いたことでしょう。

3:3 先に短く書いたとおり、奥義が啓示によって私に知らされました。

3:4 それを読めば、私がキリストの奥義をどう理解しているかがよく分かるはずです。

3:5 この奥義は、前の時代には、今のように入りの子らに知らされていませんでしたが、今は御霊によって、キリストの聖なる使徒たちと預言者たちに啓示されています。

3:6 それは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人も共同の相続人になり、ともに同じからだに連なって、ともに約束にあずかる者になるということです。

3:7 私は、神の力の働きによって私に与えられた神の恵みの賜物により、この福音に仕える者になりました。

3:8 すべての聖徒たちのうちに最も小さな私に、この恵みが与えられたのは、キリストの測り知れない富を福音として異邦人に宣傳伝えるためであり、

3:9 また、万物を創造した神のうちに世々隠されていた奥義の実現がどのようなものなのかを、すべての人に明らかにするためです。

3:10 これは、今、天上にある支配と権威に、教会を通して神のきわめて豊かな知恵が知られるためであり、

3:11 私たちの主キリスト・イエスにおいて成し遂げられた、永遠のご計画によるものです。

3:12 私たちはこのキリストにあって、キリストに対する信仰により、確信をもって大胆に神に近づくことができます。

3:13 ですから、私があなたがたのために苦難にあっていることで、落胆することのないようお願いします。私が受けている苦難は、あなたがたの栄光なのです。

このようにユダヤ人と異邦人が一つとなるということは、奥義中の奥義でした。それは十字架の力によるものです。十字架は神さまからの一方的な恵みですから、人間の行いによらず、また条件にもよれません。ですからユダヤ人も異邦人も関係ないのです。

また異邦人とユダヤ人が一つとなるのは、世に対して、天に対して神の救いのすばらしさを、宣言することになるのです。

パウロはそのために召されたとあります。私たちもそのために召されました。ですから異質な人とも理解し合い、受け入れあい、愛し合いましょう。むしろ、自分と違うタイプの人や受け入れがたい人こそ、受け入れて、神様のすばらしさを表わす者になりたいものです。

パウロは、かつてクリスチャンを偏狭な価値観で迫害しましたから、一番小さな者です。また受け入れられるには難しい人です。しかし、今や神の器として、共同体の中で用いられているのです。

過去が神から離れていればいるほど、その人が主によって生きていることは、力強い証しになります。過去に囚われることなく、パウロのように決心しつつ、主のために人生をささげましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

